



熊本支部報

(公社) 日本山岳会熊本支部

第61号

令和7年1月25日発行

編集・発行者 田北 芳博

(公社) 日本山岳会熊本支部事務局

熊本県玉名郡長洲町宮野 2488-2

城戸邦晴 方



阿蘇草千里パノラマ 1月下旬

目次		ページ
1 花を愛でる会秋の自然観察会「杵島岳・往生岳」	城戸 邦晴	②
2 三角西港からオジンバ山経由「三角岳」	戸上 貴雄	③
3 ファーストエイド講習会報告	土井 理	⑤
4-1 宮崎ウエストン祭	城戸 邦晴	⑦
4-2 筒ヶ岳登山	中村 寛	⑧
5 干支の山「龍ヶ岳」登山報告書	戸上 貴雄	⑩
6 令和6年度秋期森林巡視登山 冠ヶ岳登山	田北 芳博	⑪
7 忘年会及び忘年登山	中村 寛	⑬
8 「秋冬のくじゅう清掃登山」及び「意見交換会」	中村 寛	⑬
9-1 第17回「山の写真展」報告書	田北 芳博	⑰
9-2 登山報告会	田北 芳博	⑱
10 会員の異動	城戸 邦晴	⑱
編集後記 自分なりの山歩き	田北 芳博	⑳

1 花を愛でる会秋の自然観察会「杵島岳・往生岳」

城戸 邦晴

期日：9月26日(木)

参加：石井文雄、中林暉幸、池田清志、前田節子、森美代子、本田敦子、池田のり子、
石坂征勝、城戸邦晴 参加者9名(敬称略)

朝8時に大津町生涯学習センター東駐車場に集合し、2台の車に分乗して阿蘇草千里へ向かった。阿蘇に入ると雲がかかり天気を一時心配したが、雲は次第に消えて好天になった。平日なので草千里駐車場はガラ空き。9時5分、杵島岳への道を歩き始めた。すぐにミズヒキ、ゲンノショウコの赤が目飛び込んできた。道標から



始まる階段を登って行くとワレモコウ、ホソバノヤマハハコがあらわれた。登るにつれて景色が素晴らしく、米塚、蛇ノ尾が眼下に見えた。登山者は少なく2~3組程度。9時43分杵島岳頂上着。名前の判らない花

はさしおりカメラにおさめ10時に頂上周回へ向かう。溶岩の固まった岩がゴロゴロする中、加工壁の切り立つ縁をときに覗き込みながら進む。杵島岳は火口跡が多い山である。半周して急坂を下り10時25分鞍部へ着き休憩。10時50分より再び登り、往生岳南峰11時8分。さら



に北峰へ向かう。11時27分北峰に立つ。ここで昼食。眼前に去年登った馬の背古道、中岳、櫛尾岳、高岳を望むことができた。好天だった。足元にはミヤマキリシマの株が広がっていた。12時13分に腰を上げ、南峰に12時23分再び立つ。さらに下り鞍部へ。ここから方向を変え、大鍋周回に向かう。両側から萱が繁り道をふさぐ。足元が見えず小さな段差でもショックで歩き難い。アセビやヤシャブシが繁る中をかき分けて進み、間もなく舗装の牧道へ出た。左は古坊中、右へ道をとる。アキグミ、アセビ、ヤマフジを見る。杵島岳への道標のある階段下に1時50分、海外からの観光客で賑わう駐車場着は2時3分。このとき前田さ

んがペンを紛失し悲観にくれていたが、スーパーの中林さんがそれを拾っていた。大切な品らしく、前田さんは大喜びで中林さんにハグ、歓喜の瞬間だった。皆さんトイレをすませ帰路につく。途中どこどこ湯に立寄り、大津着は 3 時 30 分。最後の締め挨拶をして、3 時 40 分に解散した。

(観察した植物) ゲンノショウコ、ミズヒキ、イヌタデ、ヒメジョオン、サイヨウシャジン、ヤマラッキョウ、ワレモコウ、ヤマハギ、ホソバノヤマハハコ、アキノキリンソウ、キリシマヒゴタイ、リンドウ、ヤシャブシ、ツクシアザミ、シモツケ、クサフジ、イタドリ、ノリウツギ、オトコヨモギ、ミヤマキリシマ、イワカガミ、ミヤコグサ、コケモモ (以上 23 種)



2 三角西港からオジンバ山経由「三角岳 405.7m」

2024(令 6).10.5 (日)

低山クラブ / 戸上

9:25 三角西港を出発 ～ 9:36 三角権現社 ～ 9:56 東屋展望所 ～ 11:13 オジンバ山(大休憩) ～

11:38 鞍部(谷へ下りる地点) ～ 12:10 三角岳西尾根に出る ～ 12:42 三角岳山頂(昼食)13:05 ～

標高 370m 分岐地点(稜線を外れ西へ下山) ～ 14:37 出発地三角西港到着

休憩等含む全所要時間：5 時間 15 分

距離：4.6 km、

累積標高差：496m (以上、戸上ヤマップによる)

参加者 10 名

池田清志・石坂征勝・城戸邦晴・志水由紀・田北芳博・戸上貴雄・中林暉幸・中村寛・松尾重勝・安場俊郎



私を含め数人いた。

オジンバ山山頂は大岩が立っているだけで、暗く展望もなく味気ないが、三角岳はタブノキの純林が緑陰を作り、展望もそこそこで気持ちが良い。



アクアドームや南区役所で適宜乗り合わせ、あるいは直接的に三角西港に集合し、宇土半島突端に位置する三角権現社の参道階段から登り始めた。最初は海を垣間見ながら快適に森を進むが、展望所を過ぎてからは徐々に暗い藪道となり、滑らぬよう斜面の落ち葉を踏みしめながら登る。

オジンバ山直下と、オジンバ山を過ぎて一旦谷へ下ってから三角岳西稜に上がるまでの斜面は本格的な藪の中である。何故かヤママップが正確に作動しない（軌跡がハチャメチャ）者が、

当初計画では、雲龍台を過ぎて天翔台との鞍部から谷へと下山する予定だったが、下見してみると倒竹と草の繁茂で荒れまくっていたため変更し、かなり手前の稜線標高 370m の高み地点から海技学院跡方面へと下った。

藪漕ぎに慣れない方には少し厳しいコースだったかもしれませんが、読図の勉強をしたと思っていただければ助かります。



3 2024 年度 日本山岳会熊本支部山岳

ファーストエイド講習会報告

担当：土井 理

期日：2024 年 9 月 14 日(土曜日)14:00－15 日(日曜日)15:30 迄

場所：四季の里旭志 中広間及び野外 熊本県菊池市旭志麓 2934－10 TEL:0968-37-3939

宿泊 or 日帰り通いで募集を行いましたところ殆どの方が通い希望でしたので宿泊中止し通いで開催としました。

例年は、日本山岳会熊本支部内部のみでの開催で行っていましたが、今年は阿南大吉社長のご厚意にて、自然を愛する会の月刊誌の「連山」に案内を記載させて頂き一般募集を行いましたところ、会外から一般の方 7 人の参加を頂きました。

◎ 9 月 14 日（土曜日）受付時間:14:00 受付講習場所：中広間

14:00 には皆集合することが出来て講習を少し早めに開始致しました。

14:00～15:45	座学講義＋実技	ファーストエイド概論、外傷、救助要請を含む
15 分間休憩	休憩	
16:00～17:30	座学講義＋実技	熱中症、高山病、落雷

一般参加の方々は福岡県久留米からの参加の方々が中心で、四季の里への宿泊をテント泊でされておられました。更に阿南大吉社長のご厚意により通常では行わない建物内宿泊を 1 人 1500 円で受け入れて頂き、宿泊者の方々への便宜をお計らい頂きました。感謝です。

◎9 月 15 日（日曜日）建物は 10:00～のオープンなのですが、職員出入り口を使用させて頂き、8:00 前から受付開始致しました。この日も皆早く集合でき、8:00 過ぎに開始しました。

8:00～9:30	座学講義＋実技	前日の復習と出来なかった分の追加講習、CPR
9:30～12:00	野外(BBQ ハウス前)にてシナリオトレーニング	
12:00～	昼食＋休憩	
12:30～15:30	野外にてシナリオトレーニング、背負い搬送システムの習得	

15:30 終了解散致しました。

山岳会参加者： 岩下律雄、前田節子、佐藤正樹、松本莞爾、森美代子、池田清志、

池田のり子、中林暉幸、山本直、石井文雄、中村寛、城戸邦晴、(土井理)13 名

一般参加者： 田畑修、田畑由美子、西山智美、福本勲 篠崎善則、田中幸隆、津留崎英子 7 名

合計 20 名：初日 18 名、2 日目 18 名 となりました。

収支：1 人 1000 円(資料代金＋施設利用料金)。阿南大吉社長より無償で施設利用させて頂ける事となり、本来は利用料金が発生するところご厚意で無料で利用させて頂きました。1000 円×19 名＝19000 円、材料 3890 円＋資料料金 1690 円＝5580 円を差し引いて、19000-5580＝13420 円の黒字になります。 阿南大吉社長のご厚意で支部費に入れました。

今回開催を四季の里にさせて頂きました。熊本県内の方からの距離はさほど遠くなく、当初は宿泊での懇親会も考えていましたが、県内全ての方が通いで参加となり、懇親会開催はできませんで

した。参加の申し込みが少し遅くなられました久留米山岳会から参加の方には当初宿泊と説明をしており中止した為、ご迷惑をおかけしました事は改善点を検討しなければなりません。今回初めての一般募集を行い7人の方の参加頂き、質問も多く頂き、役に立ったとも感想を頂きました。スケジュール時間を短く絞った講習会となった為、低体温症等の重要な項目も講習はできませんでした。一般登山者へのニーズはあるものと考えられますので、これからも可能な限り継続して行きたいと考えてます。



4-1 宮崎ウエストン祭

城戸邦晴

第37回ウエストン祭が今年も11月3日高千穂町五ヶ所の三秀台でおこなわれた。日本アルプスを世界に紹介し近代登山の父といわれるウオルター・ウエストンは熊本に宣教師として赴任していた時に祖母山に登った。それは日本アルプスに登る1年前のことだ。それを記念してここ五ヶ所に記念碑が建てられたのである。毎年11月3日に記念祭が行われている。熊本支部からは土井支部長はじめ10人の会員が参加した

(参加者名は次ページ筒ヶ岳登山に記載あり)。午後1時に集合し即出発、途中高森で奉納酒を購入し、3時頃に五ヶ所到着、三秀台で開始を待った。五ヶ所高原の記念碑の立つ高台は周囲に祖母山、九重山、阿蘇山の秀峰が見渡せるので三秀台と呼ばれる。この日もきれいに晴れ渡り、これらの山々がくっきりと見えていた。風が吹いていた。三角旗が飾られ日章旗、日本山岳会旗も風にはためいていた。町長、宮崎支部長、日本山岳会本部の挨拶などがあり、その後児童により鐘が鳴らされ、美しい風景の中に鐘の音が流れていった。ウエストンの歌が披露された。30分ほどで式典はおわり、我々は五ヶ所公民館へ入った。荷物を置き、歩いて農産物選果場へ移動した。ここでセレモニーが始まるのを待った。バザーが始まっていた。うどんやビールを買い求め開催を待った。暗くなってまた開催の挨拶、これが長かったが、協力者が多くやむをえない。古代の衣装を着た新婚さんが遠き山に日は落ちてのメロディーにのってあらわれ点火式、炎はたちまち燃え上がり天を焦がした。夜空には満天の星が輝いていた。ロマンティックな夜であった。様々な出し物があつてすべては書ききれないが、忘れてならないのは熊本支部から出場した中村寛さんのギターと歌である。22歳のわかれ、いちご白書をもう一度など4曲を披露した。懐メロに皆聞きほれていた。まだ残っていた人もいたが我々は引き上げて公民館



ウエストン碑前にて



神楽の舞台

へ。そこで各支部の交流会が始まった。福岡支部をのぞく 4 支部が集まった。宮崎支部は女性の活躍が目についた。司会は女性、事務局長も女性で目の前にきて話しかける積極性には感心した。各支部が近況報告をしたが、熊本支部は来年の九州五支部総会を熊本支部が担当する、その案内をし、内容を説明した。交流会は 10 時には終了した。明日、宮崎支部などは祖母山に北谷から登山する。これは毎年同じようだ。熊本支部は独自に選んで登山である。早くも電気が消えて皆寝袋に入った。この続きは別稿で。



キャンプファイヤー前にて



中村さんソロ熱唱

4－2 筒ヶ岳(1292.9 ㍎)登山

担当 中村 寛

ウェストン祭が行われる三秀台の丘から、中央に祖母山が見えます。その隣に筒のようなすどい岩峰が見えます。いつか登りたいと思っていた山です。

それが、筒ヶ岳です。この時期、紅葉シーズンで祖母山は早朝から駐車場は一杯になります。今回は、紅葉の中、祖母山系の筒ヶ岳に登ります。鋭い岩峰ですが、連結されたハシゴを上ると直ぐに頂上です。

参加者 中林暉幸、城戸邦晴、石井文雄、土井理、池田清志、山本直、田北芳博、戸上貴雄、坂本雄二、中村寛 以上 10 名（敬称略）

山行実績

日時 11 月 4 日(月、振替休日)

① 7時 一の鳥居登山口発

予定より早く出発、踏み後もあまりなくここからの登山者は少ない。暫く歩くと松ヶ鼻（1195 ㍎）まで登りが続く。

② 7時40分 松ヶ鼻頂上着 二度の下見でトラバースの箇所がわかり 20 分程短縮できた。

③ 8時30分 筒ヶ岳着 急登が続きロープも何箇所もつけられている。ヤマップと

地図にはこの先の頂きが、筒が岳とある。九州脊梁の白岩山と水呑の頭と同じかもしれない(地理院地図には白岩山は無名、水呑の頭が白岩山)。二段連結のハシゴで岩を上るとそこが頂上。眺望はよく、九重、由布岳、阿蘇の山並み、後方にはどっしりとした祖母山が見える。写真を撮って、山を眺めてゆっくりと 30 分程過ごした。



筒ヶ岳の頂上への二段連結のハシゴです



登山口の一の鳥居です。



ヤマップのデーターでは、平均ペースは 150～170%でした。ベテランばかりでしたので 1 時には大津に着きました。写真は岩場を登る池田さんです。



筒ヶ岳頂上、ここからの眺めを暫くゆっくりと楽しみました。

5 千支の山「龍ヶ岳」登山報告書

担当 / 池田清志・戸上貴雄

期日：令和6年11月10日（日）

コース：二弁当峠側登山口スタート

～念珠岳 502.5m

～龍ヶ岳 469.3m ゴール

参加者 15 名 … 一般 4 名（男 3 女 1）、支部 11 名 次のとおり（敬称略）

池田、石坂、浦川、城戸、戸上、中林、中村、前田、松尾、安場、山本

なお、戸上は車の回送（運転手の輸送）や
エスケープ車を担当した。

集合はアクアドーム駐車場 7:00 集合のところ、会員の皆さん 30 分以上前から来ている人もあり、参加費の徴収とチェック、配布物などご協力いただき有難うございました。会員の自家用自動車 4 台（田北・山本・中村・戸上）に分乗し、予定通り 7:10 出発。途中コンビニでトイレ休憩をとるが 15 名だからスムーズに行かず、隣に公衆トイレがあって助かった。三日



前の天気予報では14:00～15:00あたりから降り出す予報であったが、前日の予報では12:00～13:00から降り出すとなっていた。ところが当日は登山開始後1時間もたたぬ10:00頃からパラパラと来て、11:00頃には傘をさすなり、雨具を羽織るなり余儀なくされる。結局、この雨は小雨であったが最後まで降り続いた。以下、行動の時間記録

二弁当峠側登山口着 8:53、登山開始 9:20 → 11:10 念珠岳(昼食)11:50 → (烏帽子岳) → 13:30 車道出会い 13:40 → 14:35 キャンプ場事務所(トイレ等) → 龍ヶ岳山頂 → 14:50 キャンプ場事務所 15:07、迎いの自家用自動車に搭乗 15:20 → 16:14～16:30 サンパール(トイレ休憩) → 17:30 アクアドーム駐車場着・解散 17:40

念珠岳の登りで一般の方が一人、青ざめて横になるが暫くすると回復して復帰された。また、別の一般の方で膝が痛くなり車道出会いからゴールまでを登山道を行かずに車道歩きをされた。今回の反省点は次のとおりです。

①休憩や昼食休憩では〇時〇分まで〇分間取ります、と周知すること。②14人の行動は前後が長くなるので2班くらいに分けるべきだった。全員の把握がリーダーの1人ではやや困難を来した。③今回に限らず、事前に参加予定者には計画書はもちろんコース地図が届くように。支部の会員会友にはラインやe-mailで可能だが一般参加者に届くには？



最後に、参加者の1人が「雨の中の登山は初めてだったけど新鮮で楽しかった」と言われた言葉にホッとしました。なお、参加費は最終的に一般 3200 円、会員会友 2700 円とし、精算後の余剰金は支部会計に納入しました。

6 令和6年度森林巡視登山(秋期)冠ヶ岳登山報告書 担当者 田北 芳博

日時 11月17日(日)

集合 大津町生涯学習センター東側駐車場 8時集合・出発

参加者 石井文雄 中林暉幸 池田清志 城戸邦晴 山本直 前田節子

森尾奈美 戸上貴雄 松尾重勝(車借用) 武田偉幸(車借用) 田北芳博(車借用)
安場俊郎(現地で合流)

経費 600 円×11 名=6600 円 支出 5450 円(交通費乗用車3台往復50km×25円×3台=3750円、保険代1000円、案内はがき代85円×20枚=1700円)
———残金150円は支部会計に入金。

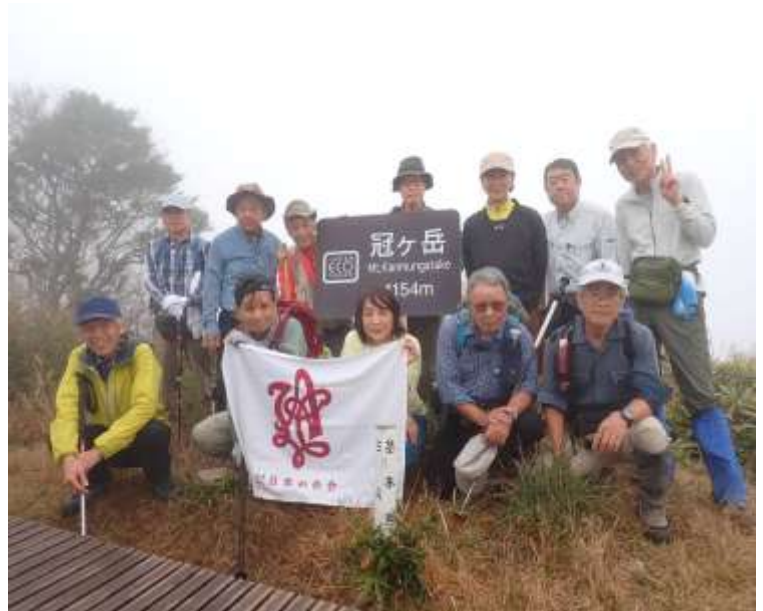
登山行程

8:00 大津駐車場→8:35 地蔵峠登山
口駐車場着→8:47 登山開始→8:58
地蔵峠→9:25 車道→10:17 本谷越
分岐→10:46 冠ヶ岳山頂―昼食―
11:26 下山開始→12:30 グリーン
ロード鉄塔コース駐車場→12:50 十
文字峠道分岐→13:30 地蔵峠→13:
43 地蔵峠登山口駐車場→14:27 大
津駐車場―14:30 解散

実施予定日の11月16日(土)は
天気予報で天候がよくないと予想し
たため、翌日の11月17日(日)に
変更した。ところが実施日が変更前
の土曜日よりも天候が悪くなってしまったようで、当初予定されている方に申し訳なかった。
サントリーの天然水の森散策は予定日変更で案内者の都合がつかず中止となり、冠ヶ岳登山
だけとなった。

国有林の巡視登山としては概ねグリーンロードから南側が国有林であり、サントリー天然
水の森はこのあたりの国有林の中心です。冠ヶ岳へ向かう外輪山登山道の阿蘇谷側が国有林
である。本日は歩いているうちに天
候が悪くなり見通しも悪くなった
ので、樹木等の観察は不十分であっ
た。しかし登山前半の阿蘇外輪歩き
では天候も悪くなかった。国有林で
の鹿の食害が見られた。

8時大津駐車場に予定の11人が
集合、3台に車に分乗し出発、8時
35分地蔵峠登山口着、8時47分登
山開始となった。8時58分地蔵峠
に着くと待っていた安場さんと合
流し、本日は総勢12人となった。



冠ヶ岳山頂にて



十文字峠道合流点にて

本日は下り坂の天気であり、地蔵峠付近からは雲が多い阿蘇谷を眺められたが次第に雲が多くなり、俵山方面との分岐の本谷越からは見通しが悪く雲の中を進むことになった。山頂には 10 時 46 分に到着、周囲の風景が見えない中、昼食となった。

11 時 26 分下山開始。2 分歩くと鉄塔コースへの近道が左にできていた。近道は杉林の中を通り歩きやすい道である。10 分以上はコース短縮できたであろう。鉄塔コースも以前のように長くなく感じる。最初の鉄塔に出たところで雨が降り出し、雨具を着ることとなった。12 時 30 分鉄塔コース駐車場を過ぎ、12 時 50 分十文字峠からの道との合流点まで数回のアップダウンであった。そこから地蔵峠までほとんど平坦な林道歩きであるが、見通しの悪い霧の中を歩いた。地蔵峠 13 時 30 分着、登山口駐車場 13 時 43 分着。帰路は霧が濃く、見通しが悪い中を運転した。大津駐車場に 14 時 27 分に到着、14 時 30 分解散した。



外輪の杉林のなかを歩く



鹿の食害



冠ヶ岳登山行程軌跡

7 忘年会及び忘年登山

担当 中村 寛

期日： 12月14日(土曜)～15日(日曜)

場所：旭志 四季の里 バンガロー 時間：午後4時半集合

① 忘年会参加者

城戸邦晴、土井理、安場俊郎、石井文雄、中林暉幸、松本莞爾、田北芳博、森尾奈美、前田節子、浦川留美、武田偉幸、木下昭二、中村寛 計13名（敬称略）

② 登山参加者

中林暉幸、安場俊郎、石井文雄、石坂征勝、武田偉幸、木下昭二、中村寛 計7名

*四季の里バンガローはバーベキューもできますが、当日の外は寒く、中で鍋にした。必要なものはレンタルでき、シャワーも利用できて快適に過ごせた。

*忘年会について

5時過ぎより鍋を3つ用意して皆で楽しくいただきました。お酒も入り、城戸さんの音頭で「穂高よさらば」を皆で2度歌いました。この歌には、穂高に続く上高地から見える光景が歌われています。前穂高、河童橋、横尾、屏風岩、奥穂高などです。中締めの後、残った6人で暫くお酒を飲みながら和やかに談笑しました。

*登山について

早朝8時過ぎには石坂さんが参加。計7名で8時半には森林コースから登り始めた。登山口の温度は0度、雪も風もなく歩くとすぐに体が温まった。先頭は安場さん。暑かった山の日の鞍岳登山と違って快調に登れる。程なくして鞍岳に登頂。快晴で眺めがよくTSMCの工場も見える。頂上の鞍岳(雄岳)から隣の女岳、左に子岳、ツームシの先には、孫岳、この山には家族3代が揃っている。私は、私用の為ここで皆と別れて、下山。皆はこれから更にツームシまで足を伸ばした。





写真は「穂高よさらば」を歌う城戸さん。森林コースの登山口は、温度は0度。
鞍岳頂上は、快晴で遠く雲仙まで望めた。ツームシ山での記念撮影。気持ちいい登山でした。

8 「秋冬のくじゅう清掃登山」及び「意見交換会」

主催 山のトイレ・環境を考える福岡協議会

参加者 中村 寛

- ① 場所：12月7日(土) 13時 牧ノ戸登山口 黒岩山
② 18時 法華院温泉高原テラスで意見交換会
③ 場所：12月8日(日) 8時 A班 牧ノ戸で携帯トイレとアンケート調査
B班 久住山まで清掃活動

13時より福岡からの一般参加の方と黒岩山に登る。18時から高原テラスで意見交換会
早々に私に指名があり報告。

報告内容 森林保全活動を田北さんの支部報を見て報告、次に登山でのマナーを一般募集
での登山教室で共有しようとしていることを報告。ただ、報告内容がこの会の趣旨と少しず
れていることを感じ後半は山でのトイレ環境に話をシフトしました。

この集まりは、元「のぼろ」の大西さんや北九州支部の磯野さんたちが主催する会でした。

*啓発活動として①携帯トイレの普及 ②回収ボックスの設置をしています。

くじゅうは既にオーバーツーリズム状態の認識の上で12月～3月までトイレは使えない。
その為当日は携帯トイレの配布及びアンケート調査をマイナス3度、時々吹雪の中震えな
がら行いました。余りの寒さに久住山まで清掃活動が良かったかなとも思いました。歩かな
いと寒い。去年のアンケート調査資料をもらっていましたが、今回も昨年と変わらないよう
でした。携帯トイレは90%以上が知っている。40%が使ったことがある。持っていると言
えた人もかなりいました。ちなみに登山者の50%以上は福岡県でした。回収ボックスの設
置には牧ノ戸の売店が反対されています。理由は他のごみを捨てられることや衛生面の問題
もあります。基本持ち帰りですが、山ではありませんが赤ちゃんの紙おむつの回収ボックスが
用意されているところは多数あるので、登山者のマナーも問題になります。熊本ではこの活
動はないようですが、トイレは済ませて登る。登山口近くのトイレの確認、利尿作用のある
コーヒーやお茶を控えることも効果があります。



7日は福岡のボランティアグループと黒岩山に登りました。右の冊子でミーティングが
始まりました。

9-1 第17回「山の写真展」報告書

担当 田北芳博 副担当 三宅厚雄

開催期間 令和6年12月1日（日）～12月22日（日）

会場 熊本市食品流通会館1階ギャラリー（フードパル）

熊本市北区貢町581-2

出展者13名（前回11名）土井理・廣永峻一・中林暉幸・石井文雄・城戸邦晴・

池田清志・阿南大吉・中村寛・赤星隆弘・森美代子・浦川留美・三宅厚雄・

田北芳博（順不同）

記帳者 100名（前年度95名）

作品数 33点（前年度36点・前年度は古道調査パネルを追加展示した）

写真展示 設営 12月1日（日） 午前9時より

撤収 12月22日（日） 午後3時より

今回は昨年と同じ展示場でありました。昨年は展示数も多く古道調査パネルを追加展示したため展示が少し窮屈でした。今回は出展者ごとにばらけないように掲載できて、まとまりがある展示にできた様な気がします。

出展作品も人それぞれに思い入れのある作品出会ったような気がします。出展者の皆様に感謝致します。会場のフードパルは平日の人出は少ないようですが、土日は行事などがあって賑わうようです。

記帳者は100名、記帳簿のダブリは省きました。また多数の代表としての記載もあります。昨年の記帳数は95名なので今年が少し賑わった様な気がします。





また少数ですがアンケートの投入がありました。

アンケート意見○石井さんのキヨスミウツボ、ヘツカコナスビ、初めて聞く名前ですどこにありますか。(加藤功一) ○野焼き時の炎のすごさと鹿が飛び出てきたところを激写されてすごいなあと思いました。皆様の写真を見て、その場所に行きたい！！と感動しました(浦川留美) ○九重高原の秋景色、根子岳としだれ桜、構図、色彩が素敵です。(吉川博文) ○素晴らしい山岳写真でした。山々を懐かしく思い出しました。(八代市、内藤) ○田北さん、来ました。お誘いありがとうございます。(シェルパ、大串)) ○お世話になっています。大変な写真を見ました。美しい町、山、よしとします。○素晴らしい写真がいっぱいでしたね。特に詳しい解説付きの三宅先生の写真は心に残りました。先生の熱意が伝わり感心しました。ありがとうございました。(天草の住人)

第17回 山の写真展 出展者作品一覧

※掲載は順不同です

出展者	作品名	作品名
土井理	富士吉田0合目からの富士 晩夏初秋の岳滅鬼山山系	富士6合目からの春の日の出
中林 暉幸	錦繡の天狗岩	雪山に向かう道
廣永 峻一	命懸け	
石井 文雄	山で出会った植物 ハバヤマボクチ 山で出会った植物 エビネラン	山で出会った植物 キヨスミウツボ 山で出会った植物 ヘツカコナスビ
城戸 邦晴	地獄谷晩秋	平成新山
池田 清志	日本海三島の“しま山百選”	(大パネル)
阿南 大吉	噴火の後と岩手山 磐梯山	青と春 石川県輪島にて 高千穂峰と御池
赤星 隆弘	雪景色	凜 冬
中村 寛	昭和の町の富士山	
浦川 留美	雲海に浮かぶ富士	
森 美代子	五竜他岳から西遠見山への途中 岩小屋沢岳から爺ヶ岳への岩場	針ノ木雪渓 四季の里旭志にて救助訓練
三宅 厚雄	天草富士、産島 九重高原の秋景色	豊後街道二重の峠の石畳、冬の雪景色 阿蘇役犬原遊水池周辺の春景色
田北 芳博	樹氷と杉林 菜の花と涌蓋山	雪の杵島岳 根子岳としだれ桜

9-2 登山報告会

担当 田北 芳博

日時 12月8日（日）午後2時～4時

会場 熊本市食品交流会館第1会議室B（フードパル）

出席者 21名（会員会友15名、一般参加者6名）

1 土井 理 「残雪期富士登山報告」

4月末に会員4名（土井理、城戸邦晴、中村寛、浦川留美）で遠征した残雪期の富士登山の報告である。標高0メートルからの登山の報告。昭和の町、佐藤小屋泊、ハードな雪山の山頂までの登山などを報告していただいた。

2 池田清志 「低山クラブ有志の九州百名山」

低山クラブの有志による九州百名山の登山、令和6年は6回ほど1泊2日で九州各地に出かけた報告。対馬への2泊3日の州藻白嶽などの登山旅行、大隅半島の高隈山系登山などが報告された。

3 三宅厚雄 「阿蘇山、山岳信仰と古道」

古道調査は5名でプロジェクトチームを組み、何回も会合や現地調査を行いました。その中で三宅さんが熱心に取り組まれた阿蘇の修験者の道の調査、西巖殿寺から阿蘇山上までを報告していただいた。

会場は昨年と同じ場所であったが、昨年より参加者が多く、座席が足りないのではないかと少し心配になったのはうれしいことです。報告者3人ともプロジェクターを用い写真を交えての話でした。



10 会員の異動

会員入会（家族会員）

城戸 郁子（城戸幹雄の妻）

編集後記 自分なりの山歩き（田北芳博）

人生 100 年時代といいますが、定年後の第 2 の人生が長くなって参りました。70 歳超えてなお働く人が増えてきました。私は少し早い離職かもしれませんが、63 歳で手頃と考えて離職し、山風景の写真関係を頑張ろうと考えました。「第 2 の人生、山写真を頑張ろう」そんな気持ちで勤務を辞めたのはもうかなり前に感じますが、今後も継続していきたいと思います。

山風景写真を撮り、写真集など作成し皆さんに観てもらうことは費用がかかりますが私にとって楽しいことです。私は道の駅大津で写真展示を行ったり、何カ所も写真集やポストカードを置いたりしていますが、現在も続けられることはありがたいことです。

さて、あなたは山歩きをいつまで続けられますかと尋ねられたらどう答えますか。私の答えは「一生続けます」です。そして私は同時に山写真も続けたいと思います。熊本支部には一生登山を行われている方が多数おられます。私はその方々を見習いたいと思います。もちろん私は体力も弱く登山能力も劣り、どうもそれほど長生きもしそうにないのですが。

そこで自分なりの山への接し方、歩き方で山歩きを行いたいと思います。80 には 80 の山歩きがあり、90 には 90 の山歩きがあると思います。要は簡単、「自分なりの歩き方をする」ことです。もちろん私は 90 まで生きるほど長命ではないと思いますが。

高齢でクライミングは無理、トレールランも無理、ならばゆっくり歩きましょう。ハードな登山は元々私には向いていないのですが、今は元気な人でもいつかはリタイアしなければなりません。そこで緩斜面を歩こう、低山を歩こう、1 時間のコースを 2 時間で歩こうなどと考えます。もう少し高齢で体力が落ちると、集団で登山はできなくなる可能性があります、そのときは要は簡単、「気楽な自分なりの山歩きを实践しよう」と考えます。この先欲張って追加するとしたら、気ままな歴史散策の山歩きを加えたいと思います。

最近寒い日が続きますが、山を歩いていると汗はほとんどかかなくて運動できて、低山を歩いていると寒くはなく快適に感じる人が多いと思います。高齢になり体力が心配になると体力 100 パーセントで登るのではなく 70 パーセント程度で余力を残すのもいいのではないかと思うのは私だけでしょうか。

話は長くなりましたが適当な自分に合った山を見つけて歩くことが大事だと思うのです。私が私なりの山登りを一生続けるということは、自分に負荷をあまりかけず自分に合わせて適当に登るということです。

今回の編集後記は原稿余白ができたので、私が普段思っている自分なりのこれからの山歩きを書きました。皆さんも普段思っていること、自分の行った登山の記録など投稿いただければありがたいです。

毎度のことながら皆さんからの寄稿をお待ちしております。ご自分の普段の思いなども含めてご投稿いただくなれば幸いです。

今回も支部報校正を城戸さんと池田さんをお願い致しました。

田北 芳博 E メール yt19-57@tune.ocn.ne.jp ☎ 田北 09087611471